

2018年5月13日 川越教会

## 「宗教家」になるな

丸山 勉

### 〔聖書〕 マルコによる福音書 2章1節～11節

数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中であれこれと考えた。「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」イエスは、彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。中風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」

### コリントの信徒への手紙一 13章 13節

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

### 〔序〕 50年の礼拝の歴史の上に今がある

今日、ご一緒にこの朝、礼拝を捧げることが出来て、心より感謝致します。

今日、久しぶりにここ川越教会に来られた方、或いは初めてこの教会に来られた方もいらっしゃるかもしれませんが、私自身もこの4月からこちらの教会で牧師として仕えさせて頂いている新参者です。どうぞ宜しくお願い致します。

今日は、川越キリスト教会の伝道開始50年記念の感謝礼拝です。それは、これまで50年間、この川越を支えてきた皆さんが欠かすことなく礼拝を守り続け、そこで神様の言葉が語り続けられてきたからこそ、今日この日がある訳で、神様が導いて下さったその歴史の中で、今ご一緒に礼拝することが出来ますことは、本当に嬉しいことです！

ところで、皆さんは何故教会に来られるようになったのでしょうか？ ご自分から教会の門を叩いた、という方もあるかもしれませんが、特にこの日本などでは、誰か身近な人が既に教会に行っていたとか、誰かに誘われたとか、或いは幼い頃に教会の幼稚園や保育園に行っていた事がきっかけになった、という方は多いのではないかと思います。

人それぞれのきっかけがありますが、<誰か>の存在、<何か>の存在があなたを教会へと導いたということがあったのではないのでしょうか。

## [1] 主イエスのもとに友を運ぶ

私は先ほど読んで頂きましたマルコ福音書2章初めにある「中風の者の癒し」の物語にはいつも心を打たれるのですけれども、改めて読んで、ここには「教会」の物語があるなあと思いましたので、それを分かち合わせて頂きたいと思います。

ここにされている病人は自分からイエス様のいる所に行った訳ではありません。いえ、行くことが出来ませんでした。「中風」という病気、その言葉は、「突然悪い風にあたって倒れる」ことを意味するようです。血管が突然つまったり、破れたりするととても厳しい病気です。そのことで脳の機能が失われると、体の麻痺が起こり、高齢であれば寝たきりになる可能性も非常に高くなるそうです。

この男の人は、もう諦めてしまっていたのかもしれませんが。年齢は書いてありませんけれども、もう自分の人生はこのまま終わったも同然だ、と考えていたかもしれません。

ちょうどその時、イエス様が近くに来ている、という噂をこの病人の友達が耳にしたのでしよう、しかもそのイエス様は、汚れた霊に取り付かれた者や、重い皮膚病を抱える者をすっかり癒されたと言う。是非、この今苦しんでいる友をイエス様のいる場所に運ぼう。きっと彼のこの苦しみから解放してくれる。でも一人では運べない。そうだ、友人たちに手伝ってもらおう、とそのような思いから友人たちと力を合わせ、担架のようなものに乗せて、この病人を運んだのだと思います。

ここには、「祈り」があると思います。神様、あなただけがこの病気の友人を癒すことが出来るようになります。私たちには癒す力はありません。でも、出来ることをさせて下さい。神様のわざをなすイエス様であつたら、きっとこの友人を無視することはなさらない。そのような望み＝それは信仰に基づく希望と言っても良いと思いますが、それに駆り立てられて、友人たちは、どれくらいの距離であつたでしょう、この中風の友人を、イエス様が今いる家へと急ぎ運んだのです。

しかし、計算外のことが起こりました。その家の前まで来ると、もう戸口まで人で溢れ、群衆に阻まれて、とても中に入ることは出来なかったのです。しかしそこで「仕方がない、またの機会にするか」とは思いませんでした。こともあろうに、四人で協力して病人を屋根の上に上げ、イエス様が話をされている部屋の天井の屋根を剥がし、穴をあけ、そこからこの病人を吊り下ろした、というのです。

家の中でイエス様の話を聞いていた人たちは驚いたことでしょうね、何やら天井から音がしたと思ったら、バラバラと天井を作っていた粘土のかけらや土や枝が落ちてきて、そこから床に乗せたままの男がゆっくりと吊り下ろされてくるのを見たのですから！

大変な非常識と思える行動です。しかもイエス様が語っておられる集会中です。イエス様は「集会中なのにとんでもない」と怒ったのでしょうか？無視されたのでしょうか？そうではありませんでした。5節にこう記されています。「イエスはその人たちの信仰を見て、中風の病人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。」

## [2] 「あなたの罪は赦される」

今、主イエスは、この病人に真正面から向かい合っています。イエスの言葉は、「子よ、あなたの罪は赦される」でした。

神の独り子イエス様がこの地上に来られたのは何のためなのか？先週も皆さんに私の「信仰告白」の確認をして頂きましたけれども、その「イエス・キリスト」の項目の所で、イエス様がクリスマスにお生まれになったには、ただおとめマリアから生まれたということだけではなく、その目的は、「私たち人間の罪をゆるすため」だった、という文言をいれる、ということを確認しました。そのことが既にこのマルコ福音書2章のところで明確に現されています。

特に当時、残酷なことに、重い病いは、罪がもたらした結果だと理解されてきました。そしてそのような人は後ろめたい気持ちを抱くことになっていました。病によっては人との交わりからも排除されていました。ですから、罪が赦されるという言葉は、その人の全人的な回復であった、と言っても良いのです。イエスは、「子よ」と言いました。何と優しい語りかけでしょうか！それは、あなたも神の子なのだよ、というイエスの思いだと思います。

ところが、このイエスの言葉を「神への冒瀆だ」と心の中でつぶやいた人々がいました。そこに同席していた律法学者たちです。旧約聖書の律法の専門家、人々から権威ある者として尊ばれていた「宗教家」たちです。「罪を赦すことがお出来になるのは神おひとりなのに、このイエスという男は何を言うのか。とんでもない」と思ったのです。確かに、それはそれまでの「宗教家」たちの常識を超えていました。イエス様も、そんな「罪の赦し」は言わずに、ここで病だけを癒したのなら、驚く出来事ではあっても、宗教家たちを敵に回すことはなかったでしょう。しかし、それほどイエス様は、この罪の赦しという神の出来事にご自分の命をかけたのです。

何としてでも、そのことは伝えなければいけない。その延長線上にはもう「十字架」が見えているのですね。

イエス様はここではっきりとおっしゃいました。「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」

神様からの罪の赦しを受けたこの男は、文字通り新しい命に生かされ、それまで寝ていた床を担いで、自分の家に帰ったのです。帰って何をしたのでしょうか？イエス様が自分を新しく生かしてくれた。そのことの証しをする人として、自分の家に帰ったのです。主を賛美する人生へと彼は変えられたのです。また、そのことでその場にいた人たちも変えられました。12節の終わりにはこう記されています。「人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した」。変えられなかったのは、皮肉なことに、神の言葉の専門家だった律法学者たちだけです。

### [3] とりなしの祈りによって

この物語では沢山のことを教えられると思いますけれども、イエス様がこの奇蹟のわざを起こされたきっかけになったのは、**四人の男たちの「信仰」**だったと書かれていることは、私は素晴らしいことだと思うのです。中風の者の信仰のことは一言も書いてありません。**仲間の信仰**が言われています。

彼らがしたことは、何か難しいことを考えたわけではなく、**体を使った**のです。屋根に穴をあけて病人を吊り下ろすなんていうことは、或る意味無茶苦茶です。けれども、イエス様はそれを、**彼らの「信仰」**と言って下さる。今、この機会を逃すことは出来ないという熱い思い、イエス様は必ず憐れんで下さるといふ希望、そして**何よりこの友を放っておけない**という愛に、イエス様も集会を中断して、**なりふりかまわずお応えになったのです！**イエス様は、**私たちの思いに「動かされる」**お方なのですね。六法全書のような、或いはロボットのようなお方ではなく、**今も、生きておられるお方**だからです。そして、**ご自身と関わることを「待っていて」**下さっているお方なのだと思います。

「すべて重荷を負うて苦労している者は**私のもと**に来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11:28)と言われた通りです。

「教会」とは、このように、たとえ4人でなくてもいいです。愛する者のために**「執り成し祈る」**共同体にほかなりません。私たち一人ひとりも、誰ひとり例外なく、教会の仲間の執り成しの祈りを受けて、今日あるのです。その執り成しの根っ子にあるのは、まず、**主イエス様ご自身が、私たちのために祈っている**事実です。

D・ボンヘッフアーという20世紀ドイツの牧師・神学者は、『共に生きる生活』の中で、このようなことを書いています。これは私自身心に刻んでいる言葉です。

「キリスト者は、日ごとに義に飢え渴くゆえに、常に繰り返し、救いの言葉を求める。**救いは、外から来なければならぬ**のである。助けは、われわれに救いと義と赦しと祝福を与えるイエス・キリストの言葉において、かつて来たし、また日々新たに來るであろう。…キリスト者は、**彼にみ言葉を語ってくれる他のキリスト者を必要とする**。キリスト者は心が動揺し、気落ちしている時は、いつも他のキリスト者を必要とする。彼は、神の救いの言葉の担い手、宣教者としての兄弟を必要とする。彼は、**ただイエス・キリストのために兄弟を必要とする**のである。兄弟の言葉によって語られるキリストは、**動揺し、気落ちしている自分の心の中のキリストよりも、はっきりしており、力強い**からである。前者は確かであり、後者は不確かである。したがって、あらゆるキリスト者の交わりの目標は明らかである。**キリスト者は、「救いの言葉を持ち運ぶ者」としてお互いに出会う。**」

### [結] 教会—「生ける」キリストのからだ

この世に「教会」が存在する意味は、**キリストの言葉を聞きあう群れ**、ということだと思います。み言葉、それは**天からの糧**です。それは魂を癒す生ける川の**流れ**です。神様が生きてるように、み言葉も生きています。風のように自由に働かれます。「あなた方は、キリ

「**キリストの体であり、一人ひとりはその部分**」というパウロは言いました。これが教会の本質です。「キリストの体」は、生きています。「有機体」ですから、「体」ですから、固定化しませんし、しなくて良いのです。

川越教会も50年間固定化しませんでした。思いがけないでこぼこ道を通過するような時もあった訳ですが、主さえ見つめていれば軸がぶれることはありません。そして**臨機応変**が利きます。「**宗教家**」になるのではなく、**生けるイエス様をいつも仰いで、信頼していきたい**と思います。イエス様が**必ず導いてくださる、そう信じて、望んで、愛のために心と体を動かしたあの4人**のようになって、**主の僕として頂きたい**と思います。

**お互い、主の前に運ばれて来た者同士**ではないでしょうか。そうであれば、また新しい方とご一緒に主の前に進み出たいと思います。

主に栄光がありますように！

祈ります。

今日、ご一緒に川越キリスト教会伝道開始50周年の記念感謝礼拝を捧げることが出来、本当にありがとうございます。

50年間、一度として同じ礼拝はありませんでした。集まる人たちも、また、牧師も代わって参りました。その中には既に天に召された三代目牧師の藤澤先生もおられます。けれども、その中で、貫かれてきたのは神様の言葉です。イエス・キリストの十字架と復活の事実です。これからも、私たちを真に生かす罪の赦しの福音に生かして下さい。教会は、そこにいつもキリストが迎えて下さる「帰っていく」所です。天のふるさとの先取りです。今地上にあって、執り成し祈る信仰の共同体を力づけ、あなたの祝福で満たして下さい。特に病を得ている者、試練の中にある者を格別に顧みて下さい。

教会のかしらである主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。